

取組事例① 官民連携による長期滞在(ちょっと暮らし)の推進

(釧路市)

釧路市では、官民連携による受入体制の整備や滞在中の交流事業の実施などの施策を通じ、長期滞在者獲得による交流人口の拡大を目指している。

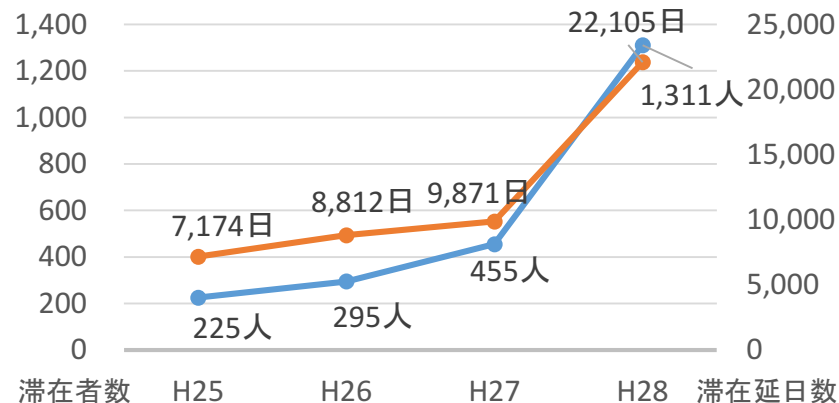
関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (H28)	目標値 (H31)	進捗率 (%)
長期滞在者数	854人	1,311人	1,200人	109.3%

取組の推進体制

釧路市その他、市内の不動産会社やホテル、観光・交通事業者を中心に「くしろ長期滞在ビジネス研究会」を組織し、受入体制整備や滞在者の交流事業の実施など、官民の連携により取組を効果的に推進。

釧路市長期滞在の状況



効果的な施策により、長期滞在者数・滞在延べ日数ともに増加している

取組事例 受入体制整備の促進や交流事業の拡大

受入体制整備の促進

- 主な取組
 - 夏の冷涼な気候やスギ・ヒノキの花粉がないなど過ごしやすい「釧路」のPRを実施
 - 滞在施設確保の不安解消と受入数増加を目的に「長期滞在施設整備支援事業」を実施



- 主な成果
 - 賃貸物件の空き部屋など13件を整備し、長期滞在用施設を確保した。
 - また、スギ・ヒノキ花粉ゼロのPR活動の実施により、新たに4社の旅行代理店が花粉ゼロツアーを販売している。

滞在者向けの交流事業の拡大

- 主な取組
 - 滞在者に向け、漁網タオル作りや牛乳アイス作りなどの「地域学習講座」を開催
 - 市内美術館や博物館などの一部施設を市民と同条件で利用できるよう「くしろステイメンバーズカード」を発行



- 主な成果
 - 学習講座数の増加やメンバーズカードによる優待施設数の増加など、地域としての受入体制に対する気運が醸成されている。

取組事例② 農村地区と都市部との交流や学生「有給インターンシップ」による人の呼び込み (江別市)

江別市では、新たな体験・交流施設を拠点に「食」と「農」の魅力を活かした取組を展開するほか、若者の地元定着と地域の担い手確保を目的とした就職支援強化の取組により、市内外から人を集め、地域全体の活性化を目指している。

関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (H27)	目標値 (H31)	進捗率 (%)
グリーンツーリズム関連施設の利用者数	485,790人	528,866人	505,400人	104.6
市内企業へ就職した市内の新卒者(高校・大学)	45人	55人	250人 (5年間累計)	22.0

取組事例 産業・雇用の観点から人を集める取組

1. 「食」と「農」による学びと活力の創出

○江別の「食」と「農」の魅力を発信し、農村地区と都市部との交流活性化を目的とした新たな体験・交流拠点施設「えみくる」がH29.4にオープン



- 主な設備
- ・6次産業化に取り組む農業者や中小企業による試作品の研究開発・製造が可能な「テストキッチン」
 - ・「調理実習室」や「多目的広場」等の体験・交流スペース

- ・農畜産物加工品の開発から販路拡大までを担う「6次産業化」の推進による新たな消費拡大
- ・イベント、セミナー、レクリエーションの開催による市内外からの誘客促進

2. 「有給インターンシップ」制度の展開による就職支援強化

○市内4大学（札幌学院大学、酪農学園大学、北翔大学、北海道情報大学）の学生を対象に「有給インターンシップ」を実施し、学生に市内企業の良さを認識してもらい、将来の就職へと結びつける機会の場を提供



- ・若者の地元定着促進
- ・市内企業の人材不足解消

- ①事前登録
※登録学生：53人(H27)→69人(H28)
※登録企業：14社(H27)→28社(H28)
- ②事前研修～基礎知識の習得
- ③受託者（人材派遣会社）による企業と学生とのマッチング
- ④企業での実務経験（インターンシップ）



市内大学生の市内企業への就職率アップを目指す

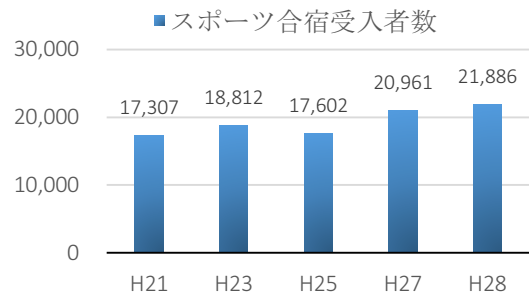
取組事例③ スポーツ合宿招致による地域の魅力向上と交流人口の拡大 (士別市・名寄市)

士別市では、「合宿の聖地」創造、名寄市では冬季スポーツの拠点化として、官民連携で地域の大会・合宿の誘致を行い、人材の育成や交流人口の向上を図るとともに、スポーツを通じたまちづくりを推進している。

士別市 関連数値目標・KPI

	実績 H27	実績 H27～28	目標値 H27～31	進捗率 (%)
新規招致チーム数	4	13	16	81%

年間で市の人口とほぼ同じ、延べ2万人以上のスポーツ選手が合宿しており、宿泊業や飲食業など地域経済の活性化に大きく繋がっている。



取組事例 スポーツ合宿の最高峰 選手をサポートするまちづくり

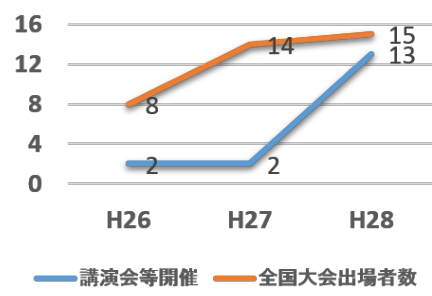
- 主な取組
 - ・民間で構成する合宿の里士別推進協議会と行政が連動し、実業団や大学の合宿招致活動を展開。
 - ・東京2020オリパラの開催に向け、ホストタウン構想の取組を加速化し、海外選手・パラアスリートの合宿招致の活動や受入環境を整備。
 - ・士別ハーフマラソン大会、サマージャンプ、ノルディックスキー大会などイベントを多数開催。
- 成果 (今後の取組)
 - ・イベント開催や合宿の受入れ増加などから地域の活性化が図られている。今後、関連産業の安定的な事業運営や雇用創出など、さらなる経済波及を目指している。



名寄市 関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (H28)	目標値 (H31)	進捗率 (%)
合宿者数 (単年延べ)	2,500	6,020	5,050	100%

五輪金メダリストを市特別参与・スポーツ振興アドバイザーとして迎え入れ、講演会や教室を多数開催。また、全国大会への出場者数の増加など、市民意識の高まりへ繋がっている。



取組事例 アスリートに選ばれる冬季スポーツ拠点の創出

- 主な取組
 - ・子どもスポーツカレッジを開催するなど持続可能な冬季スポーツ振興のための「育成」を展開。
 - ・名寄市立大学と連携し、大学の知を導入した冬季スポーツ関連事業を実施。
 - ・官民連携の「なよろスポーツ合宿誘致推進協議会」を設置しワンストップ窓口を展開。
- 成果 (今後の取組)
 - ・講演会の開催や「学官」の連携事業など、冬季スポーツの拠点としてブランディングが図られている。今後、官民の連携組織を発展させたスポーツコミッションを立ち上げ、稼ぐ力の強化に向けスポーツ関連商品の研究・開発を行うなど、新たな産業創出を目指している。



取組事例④ コンパクトシティ形成によるまちなか活性化・賑わい感の発揮 (富良野市)

富良野市では、～快適生活空間「ルーバン・フラノ」を目指して～をコンセプトとした官民協働によるまちなか再生に取り組み、ふらのまちづくり(株)を中心に「フラノマルシェ」と新施設「フラノマルシェ2」、商業・共同住宅・医療・福祉等が集積する「ネーブルタウン」を整備。滞留拠点整備によるまちなか回遊促進に取り組んでいる。

関連数値目標・KPI

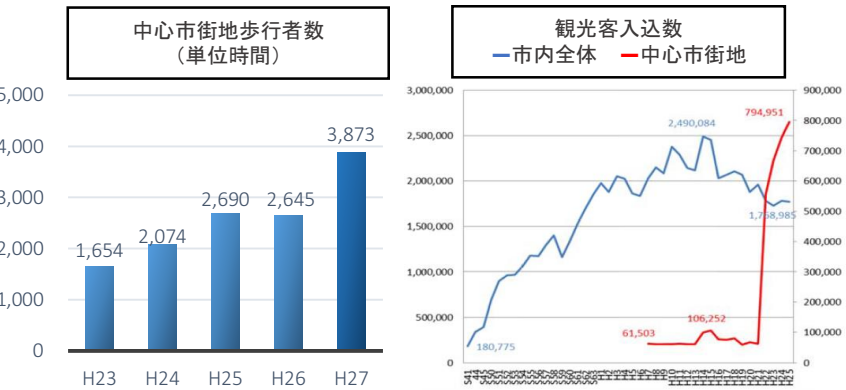
	基準値 (H26)	実績 (H27)	目標値 (H31)	進捗率 (%)
小売り店舗数	149戸	161戸	162戸	99%
賑わい向上	5%	46%	38%	100%

賑わい感: 中心市街地活性化に関する市民アンケート(意識調査)より算出

取組の推進体制

市による中心市街地活性化基本計画の策定や各種支援措置。
 官民ファンドのふらのまちづくり株式会社による「フラノマルシェ」「ネーブルタウン」整備。商工会議所による多様な情報提供など、官民協働で各種事業を展開。

歩行者通行量の状況(単位:人)



歩行者数の増加により中心市街地が劇的に変化。(マルシェ隣接地価もUP)

取組事例 官民協働による新たなまちづくりの創出

都市機能の集積と集客力の増加に向けた取組

- 主な取組
 - 日常生活に必要な様々な都市機能をまちなかに集積。(東4条街区地区第一種市街地再開発事業(ネーブルタウン)⇒マンション・商業集積・アトリウム・クリニック・保育所・個人店舗等による“生活街”の創出。)
 - 「無頭川モール」(イベント空間)を利用し、ビアガーデン、アスパラ祭りなど定期的にイベントを開催。
 - 毎年7月には、北海道を代表する「北海へそ祭り」や郊外で開催されていた「ふらのワインぶどう祭り」を移転し、まちなかで開催。



- 主な成果
 - コンパクトシティの再構築化を図るとともに、まちなかイベントを多数開催することで集客力の増加へつなげている。

まちなか回遊促進に向けた取組

- 主な取組
 - 商店主と消費者を直接つなげ、ファン(常連客)を増やすことを目的とした“まちゼミ”を開催。
 - 「メイドインフラノ事業」による、地元食材の活用・発信と富良野ブランド化の確立。
- 主な成果
 - 必要な情報発信やまちなか商店と消費者を結びつけるなど、持続的な取組によりまちなか活性化へつなげている。



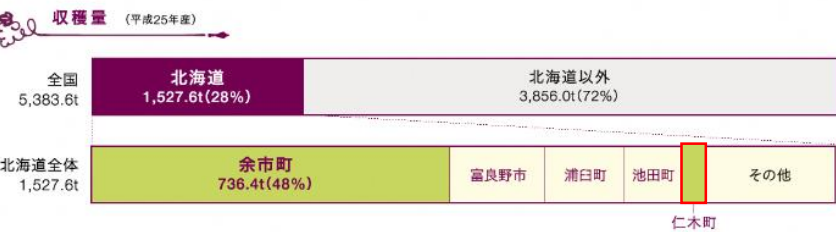
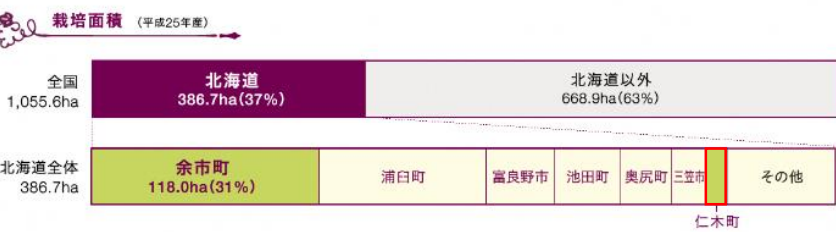
取組事例⑤ ワインツーリズムによる交流人口の拡大と関連産業の創出 (余市町、仁木町)

果樹栽培に適した気候に恵まれた余市町、仁木町では、近年ワイナリーの開設が相次いでおり、両町が連携したワインツーリズムによる交流人口の拡大を図るとともに、関連産業の創出による地域経済の自立促進を目指している。

関連数値目標・KPI

		基準値 (H26)	実績 (H28)	目標値 (H31)	進捗率 (%)
ワイン用ぶどう 栽培面積 (ha)	余市町	120	126	140	90%
	仁木町	7.5	17.6	50	35%
ワイナリー数の 件数 (件)	余市町	5	9	10	90%
	仁木町	1	2	10	20%

ワイン用ぶどう生産状況



(余市町調べ)

余市町は、ワイン用ぶどうの作付面積が北海道一であり、平成23年には「北のフルーツ王国よいちワイン特区」に認定されている。

取組事例

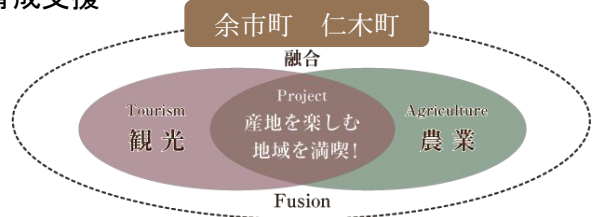
余市・仁木ワインツーリズム・プロジェクト

ブドウ畑を訪れ、ワイン造りの過程に触れ、ワインに関わる人々と出会い、その土地の風土や文化を感じてもらおうワインツーリズムにより、国内外からの流入人口の拡大とワイン産業の振興を目的に、余市町と仁木町が連携して実施



○主な取組
余市・仁木エリアのワインツーリズムの推進によりワイン産業の振興を図ることで、地域ブランド力を確立し、ワイン関連の仕事を生み出す好循環を作る。

- ・モニターツアーの実施
- ・ワインと食のマッチングイベントの開催
- ・メディア媒体を活用したPR展開
- ・ワインツーリズム実施環境の整備
- ・担い手の育成支援



ワイン産業に関連する生産者、事業の拡大により、第一次産業の担い手確保、地域経済の自立促進につながっている。

取組事例⑥ 子育て支援住宅の整備と起業等の推進による移住促進・産業振興 (厚真町)

厚真町では、総合戦略推進期間中に集中的に子育て支援住宅を建設することにより、若年者の移住を呼び込む一方、町内での雇用創出や起業推進を図り、社会増の好循環を生み出す取組を進めている。

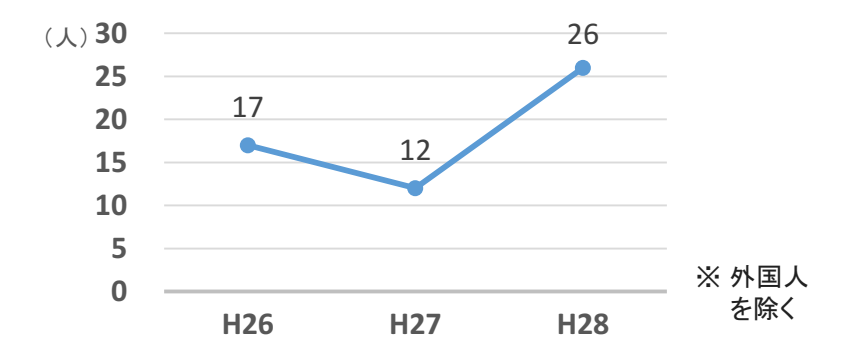
関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (H28)	目標値 (H31)	進捗率 (%)
新規起業数	5	3	15(5/年)	—
サテライトオフィス立地数	0	0	2	—

取組の推進体制

ローカルベンチャーの推進は、全国10の自治体と連携し、実績と知見を持つNPO法人を事務局とする推進協議会のもとローカル事務局を設置して実施。

厚真町の転入超過数の推移 (住民基本台帳)



H26からの子育て住宅支援住宅の整備等により、3年連続の転入超過を達成

取組事例 雇用の創出や起業の促進

地域の起業家(ローカルベンチャー)の育成

○主な取組 ・全国10自治体と連携し、ローカルベンチャー育成プログラムを開発 ・ローカルベンチャースクールの開催と専門家による事業計画作成支援 ○主な成果 ローカルベンチャースクール参加者10名のうち3名が、林業・貿易・食の各分野で起業等を目指し、H29.4から町内に移転して活動中	共通プログラム 共通コアプログラム(ローカルベンチャースクール)の開発・実施	ローカルプログラム 地域版ローカルベンチャースクール事業	起業家型人材育成 マッチング 事業成長支援
	育成された起業家型人材の活用普及	ローカルベンチャー活動発信事業	
	地域移住後の起業家型人材の事業支援	各市町村起業支援事業	

子育て支援住宅の設置

○主な取組 ・子育て世帯の移住促進のため、町外からの移住者を対象とした子育て支援住宅を整備 (戸建て15戸) ○主な成果 ・15世帯62名が入居	
---	--

サテライトオフィスの設置

○主な取組 ・お試しサテライトオフィスの設置 (H28.11～) ・廃園となった保育園を改装し、シェアサテライトオフィスを設置 (H29整備) ○主な成果 ・お試しサテライトオフィスの利用実績：4者	
---	--

お試しサテライトオフィス